

今昔で何度もとりあげた岩崎井水。それだけ歴史に重みがある。今号の“こぼれ話”もその一つ。



岩崎井水こぼれ話!!

こぼれ話。 くださった見出しで申し訳ないがこの話を知る人は少ないと思うが? **エッ私のみ!!**

林茂氏と雑談中ふと『子供の頃ラジオ屋の車庫辺りの一角が**コンクリート**になっていた』と話したところ、思いもよらぬ話を聞いたので紹介しましょう。

コンクリート跡は**岩崎用水のU字溝**を作った処だった!!

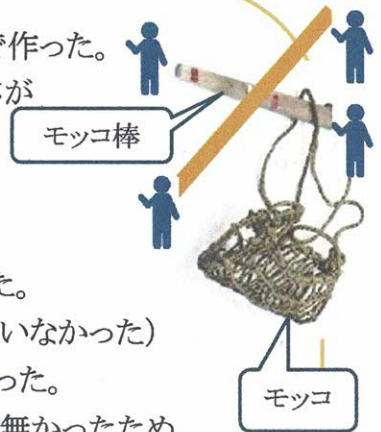


ベニヤ板で
かまぼこ型U字溝

大正時代、岩崎用水が当初の取り入れ口からの取水が困難となったので取水口を上流部に移すための水路(U字溝)を作った作業場跡とのことであった。(話の概要)



- ① U字溝はベニヤ板を使った自前の型枠にセメントを流し込んで作った。
- ② 当時は鉄筋が高価なためコンクリートを厚くしたので一個の重さがモッコ棒2本の4人掛かりでやっと運べるほど重かった。
- ③ 運搬は長谷橋で舟積みし谷川尻から根尾川をさかのぼり岩崎の現場まで運んだ。(現集荷場前の長谷川で舟にのせた)
- ④ 村には船頭がいなかったので赤石村の船頭に依頼して運搬した。(根尾川の奔流が長瀬地内を流れていたのて村に舟主や船頭がいなかった)
- ⑤ 舟に長いロープを取り付け数名で引っ張りながら根尾川をのぼった。
- ⑥ U字溝を設置する場所は川沿いのガケで据えるスペース(床場)が無かったため、根尾川の石を積み上げて床を作った。この作業も大変であった。
- ⑦ 石積みの上へのU字溝は座りが不安定な上に少しの増水で石積みが崩れたりU字溝が流されたりしたので完成後も**年中修復作業**に追われていた。
- ⑧ 作業は殆ど村人の**手弁当**で何か月もかかった記憶がある。
 - ⑧-1 セメント用の砂利は馬車で運び入れ、全て“**手こね**”で型枠に流し込んだ。
 - ⑧-2 セメントは当時お墓の東側(現在は墓場)に**セメント保管所**(発電所用)が建っていたので入手は容易であった。(金原発電所は大正10年完成:外山に電燈灯る)



取水口の移動



土砂の流失で川床と共に水面が低くなり更に上流への延長は必定と思う。

- ⑨ 岩崎井水は木知原の生命線である。
“**岩崎井水無くして村の発展は無かった**”
と言っても過言ではない。
- ⑩ きっと業者へ依頼する財源は無く
“**素人ながら自分達でやるしかない!**”
と汗を流した先人の努力を今になって知り驚きと感謝である。
- ⑪ 蛇足ながら、岩崎用水が村東一帯まで行き渡っていることを知る人も少なくなったが井水の重要性は昔も今も変わっていない。